

TCHAO PANTIN

「俺は死んだ男さ」—— **チャオ・パンタン** 〈フィルム・ノワール〉の美学

1983年 フランス映画 カラー 92分 1984年度セザール賞最優秀演技賞・最優秀新人賞・最優秀助演賞

監督+脚本=クロード・ベリ 美術=アレクサンドル・トロネ 主演=コリュシュ／リシャール・アンコニナ／フィリップ・レオタール



配給=ユーロスペース

チャオ・パンタン TCHAO PANTIN(あばよ、操り人形)

1983年 フランス映画 カラー 92分



1984年度セザール賞最優秀演技賞(コリュシュ)/最優秀新人賞+助演賞(リシャール・アンコニナ) 監督+脚本=クロード・ベリ
 原作=アラン・パージュ/美術=アレクサンドル・トロネ/撮影=ブリュノ・ニュイッテン/音楽=シャルレリー・クチュール
 出演=コリュシュ(ランベール)/リシャール・アンコニナ(ベンスサン)/アニェス・ソラル(ローラ)/フィリップ・レオタール(刑事)
 マムド・ゼムーリ(ラシッド)/アーメド・ベン・イスマエル(マムド)/製作=レン・プロダクション

◎「俺は死んだ男さ」

ランベールは、ガソリンスタンドの夜間給油係である。孤独でアル中のこの男は40オくらいに見えるが、彼がこれまでどのような人生を送ってきたかは、誰も知らない。今の彼は、単調な仕事が続く、何の変哲もない生活をしている。

ある夜、彼はベンスサンという身寄りのない青年と知り合う。ベンスサンはユダヤとアラブの混血児で、ランベールと同じように孤独だが、麻薬の売人をしている。二人は互いの孤独を慰め合い、ベンスサンは、毎晩ランベールのもとへ話しに来るようになる。二人は慰め合ったり、時には衝突したりしながら、父子のような親しみを感じるようになる。だが、そんな二人の関係も、ベンスサンがランベールの前で、オートバイに乗った二人づれの男に殺されて終わりを告げる。

ランベールは、彼らに復讐を決意する。そして、それまで素性の知れなかった給油係の「秘密」がしだいに明らかになっていく。ベンスサンを殺した男たちをみつけどそうとランベールは、ベンスサンが想いを寄せていたローラという名のパンクガールに手助けをたのむ。ローラははじめはあまり乗り気でなかったが、心は次第にランベールに傾いていった……。一方、麻薬と戦うシニカルな刑事パウアーもランベールの人柄に好感をもち、彼の復讐に陰ながら力を貸すことになる。

◎〈フィルム・ノワール〉の美学

ナチ占領下のフランスを舞台にした人間味あふれる秀作『老人と子供』(1966)で知られるクロード・ベリが、フランスを代表する人気役者コリュシュを主人公に、パリの暗黒街での若者と中年男の、ともに孤独な二人の交流と復讐を描く『チャオ・パンタン』は、美術に映画史上あまりに有名な巨匠アレクサンドル・トロネ(『霧の波止場』『北ホテル』『天井桟敷の人々』等)、撮影には『インディア・ソング』等マルグリット・デュラス作品でその映像感覚に定評のあるブリュノ・ニュイッテンを配し、

フランス映画の粋を集めた、クロード・ベリ版〈フィルム・ノワール〉である。とくに夜の雰囲気、口数少ないコリュシュの演技、そして傷つきやすいユダヤ・アラブ混血の孤児を演じるリシャール・アンコニナが強い印象を残し、84年度セザール賞で3部門受賞に輝いた話題作。

都市の夜の世界と復讐を描くこの映画は、『タクシー・ドライバー』と比較されることもあるが、それ以上に、ジャン・ギャパンやアラン・ドロンの生きたパリのアンダーワールドを彷彿とさせる。麻薬密売、暴走族、パンク・ディスコなどが風俗としてではなく、見事な背景として取り入れられている。

監督のクロード・ベリは1934年、パリで東欧移民のユダヤ人の子として生まれる。大学受験に失敗し役者に転身。63年に手がけたユーモラスな短編『ひよっこ』がヴェネチア映画祭とアカデミー賞で賞を受け、本格的に映画監督の道に入る。日本でも公開された、老ミシェル・シモンの反ユダヤ主義の爺さんと、ユダヤ少年のナチ占領下の交流を描く『老人と子供』から『パパの映画』(1970)までの4作は、自伝的要素をもちながら日常生活の機微を描いた秀作として評価が高い。またプロデューサー活動も精力的で、自らの〈レン・プロダクション〉でポランスキーの『テス』など、多くの作品を製作している。

コリュシュは1944年パリ郊外に生まれ、小さい頃からロック歌手や俳優を志してカフェで歌ったりしたが、〈テアトル・ド・ラ・ガール〉に参加、独立後の74年にレコードが大ヒットし、ボビノ座などに出演するフランス随一の人気コメディアンとなった。鋭い批判精神をもつ芸人として80年秋の大統領選に出馬、ジスカル・デスタンを相手にドン・キホーテ的な戦いを挑んだことでも有名(結果はミッテラン政権の成立)。

リシャール・アンコニナははじめての本格的な助演であり、刑事役のフィリップ・レオタールは、トリュフォーの『家庭』『恋のエチュード』『私のように美しい女』や『ジャッカルの日』『ラ・ピラート』等に出演している実力派であり、82年の『愛しきは女』でセザール賞最優秀演技賞を受賞している。



3月8日よりロードショウ

開映=入替制

月一金	1:00	3:00	5:00	7:00
土・日・祭	12:00	2:00	4:00	6:00

料金=当日1400円 前売1200円(都内各プレイガイド、チケットぴあ)

ユーロスペース tel. 461-0211 渋谷駅東急バザール下車2分 東急観光うしろ

